

“健康管理のための一声を”

～管理者の確かな点呼が事故防ぐ～

持病の血圧が原因と思われる意識障害を起こし、店舗兼住宅に衝突
心筋梗塞や脳梗塞を起こし、意識がもうろうとなり追突
持病の薬を飲み忘れて発作を起こし、ガードレールに衝突
体調不良を我慢して意識を喪失し、駐車車両に衝突

等、ドライバーの高齢化や日常の健康管理の不徹底など、健康上のトラブルから交通事故に至った事例が多くなっています。

運行管理に当たる皆さんは、ドライバーの健康に配慮し、ドライバー自身が自己管理できるための“一声”を積極的に掛けていただき、全員が心身ともに健康で乗務できるよう、ご配慮をお願いします。

<健康管理上の留意点>

点呼や声掛けから心身の健康状態を確認

～ドライバーの顔色や口調、態度などから体調を確認し、乗務の適否を判断しましょう。体調不良者には運転を控えさせることも大切です。

薬の服用を確認

～風邪や花粉症等を発症しているドライバーには薬の服用を確認しましょう。薬には、「抗ヒスタミン剤」のように眠気や頭がぼんやりして判断力や注意力を低下させるものもありますので要注意です。

体調不良になったら運転中止を徹底

～運転中、体調不良を感じたら車を安全な場所に停車し、会社へ連絡して指示を受けるよう指導しましょう。

睡眠時無呼吸症候群(SAS)に要注意

～日中、強い眠気を感じて居眠りがちになったり、集中力や活力に欠ける状態等はSASの疑いがあります。専門医の診察を受けさせましょう。